繪本
曽我物語
天保九戊午歳新版
外題
へ3
2378
264

特へ遠13
2378
263

北尾重政画　上之巻

繪本曽我物語

天保五甲午年初春　馬喰町二丁目
西村屋與八印發

君父の仇ゐい共に天を戴ぎと。異邦猶然り。況や我日域に於をや。茲に曽我氏兄弟の事蹟を考るに孝義兼備し。古今獨歩の勇士なり。宜哉其名千載の今に馨しを且其傳記あり。雖婦幼も得て見ることを欲せば故に今其要を摘画図を加へて二巻とす。以て児輩の眼に易。その文の卑陋をのがれ。彼狂言綺語の稗史と混ずることなかんを。

天保五年甲午孟春　永壽堂欽白

時政

北條遠江守ト号ス頼朝ノ舅也
頼朝出世ノ後家門
日々ニ栄ヘ既ニ三代ノ
世ニ至テ存命シテ
権威将軍ニヒトシ老後
心僻テ後妻牧ノ方ノ讒ヲ
信ジテ政道図ニアタラズ一族
他家ヲ損ズヨツテ後妻ヲ
伊豆ヘ流セバ時政心ナラズモ
出家シテ執権ヲ義時ニ譲リ
建保三年七十八歳ニテ卒ス

祐経

工藤金石九成人シテ
一鶴左衛門尉
ト号ス豆刎
赤沢山ニテ
所領ノ仇ナル
祐親ヲ討ン
トシテ家臣
成家行氏二命ジテ誤テ祐安ヲ討
後建久四年五月富士牧狩ノ時曽我兄弟ニ討ル

祐成

河津三郎祐安ノ子幼名一万丸十五歳ニシテ曽我太郎祐信ノ養子トナリ曽我十郎ト号ス武勇ノ士也弟時致ト心ヲ合セ父雙子祐經ヲ討其身モ討死シテ名ヲ末世ニ傳フ

大磯虎

大磯ノ長者ノ娘容貌美ニシテ其比艶色双ブ者ナシ曽我十郎ト馴染祐成軍期ノ後十九歳ニシテ尼ト

ナリ諸國ヲ巡リ後紀刃熊野ニ赴ク路ニテ死ス寛文三年正月七十一歳其時所持セシ十郎ノ形見ノ品神宮寺アリト云

祐安
河津三郎ト号ス
武道ノ達者カ
能登ヲアグ豆
川青沢山ニ於テ
俣野景久ノ相撲ニ
打勝ル力士肥実平ノ
恥辱ヲ雪ギ同日ニ
工藤祐経カタメニ成家
行氏等ガ矢先ニ死ス

景久
俣野五郎ト号ス大力
無双ノ勇士ナリトイヘ足
治承四年八月
頼朝石橋山
合戦ノ時
真田義忠ニ
組シカレ長尾
新六ニ助ケレ
寿永年中加州
篠原ニテ討死ス

時致

河津三郎ノ二男幼名箱王丸父祐安工藤ガ爲ニ討ル後父ノ菩提ヲ吊ハンガタメ箱根山ニ登リ別當ノ徒弟トナル後ち北条時政ノ嫡子児とり時致ト号ス建久四年五月朱雀冨士ノ狩ノ時父ノ敵祐経ヲ討チ年来ノ宿意ヲ遂ス

義秀

朝比奈三郎ト号ス義盛ノ三男建保元年父義盛実朝ヲ恨テ合戦及ブ真先ニ進テ古今例ナキ功名ヲ顕ス然ル乍運極リ父ヲ始メ一門討死ス故ニ一騎大敵ヲ切拔船ニ乘ジテ房州ヘ渡ル又嶋々を巡歴シ其説區々ニシテ所在ヲシラズト云

忠常
仁田四郎ト
号ス建久
四年五月

廿七日
頼朝
富士牧
狩ノ時大
猪ヲ突留

同九日曽我
十郎祐成ヲ討後頼家
二仕ヘ建治三年六月命ニ
ヨリテ富士人穴ニ入免出誠ニ天下ノ強武者ナリ

頼朝公

清和天皇ヨリ十代
左馬頭源義朝三男
久安三年正月
元日ノ刻ニ尾張
国熱田ニ生ル
幼名白幡丸十三
歳ノ時右兵衛佐ニ任ズ
四十四歳ノ時正三位大納言
右大将ヲ兼ル四十六歳ノ時征夷
大将軍ニ任ズ五十三歳ニシテ薨ズ
中興武将ノ第一タリ

親

別

さてもいとうすけ
づくハあとこぶんの
すけちゃくかるた
くそのあらん
とかもあゆも
あらそありけれが
あれむちゃくく
うちすぎけるふ
ある日うぬの
とちとそふと
うちふくくし
よりあぐのくま
あのりつくいまの
くうとあるひけれが
ぬすとあるりけ
くるりーれを
ちくよび
えんぢナスえ
ゆるあらが
げんぶくさらせ
いへさうでんと
あるひけるふ
のまぐさナスゆも
あくぐろゆくぬを
てくあるとと
とをらちをーけれ

えんぢナスえふ
ゆるるまでハあれ
ゆるすけちゃくを
おつのあやとも
たのむべー
すけちゃくも
子とあるいハ
れてぐんーー
ひきたそのく
かーナスえふ
ゆるゆるくが
やあうちそう
ぞくとこのく
ゆるとあるり
でうとうきく
ぐくふあくス
このくめナスえも
ふゆるゆるくが
よくこくろくそ
くこまべーこれ
よくあのこと
すけちゃくのを
たのむべーと
のひあきて此十
三えをのちを
とーてつひよ△

ようこびやそたこねく
まおくくぐこくふ
たのめんしてれがたう
けんをせうさんーあく
のちれいをのぐて
おくくつまの
めくをそで
おくける

親
祐

さてもいとうすけちろいありひの
まくふこゝのまくうをあら
ア毛うしく米をきん
ちくふくやし
けるこれをす
くるものあるくの
くとうぐちんうるう
とらくいどもみるすけ
ちろふうけくれ
たれとそくくむ
ものもるゝところは
すけちろはこれをうれひ
ひとうはこれをうれひ
ふくちんのものふめのくて
みやこへつひをおうける
ちくふくどうすけつひ
サスきはらくまく
小れどのふきしあと
さうでありけるところふ
あるとゝくふのたのとう
ひきまくきうてすけちろ
ぐ
ものをのさのコヤとちぐがら
ミのあうれとあうけるを
ひくきアてたきまあどうき
これちふこうきて
ミゝのようゝ初んあて

祐

8 ゆうこうこ毛
ゆまけちくがこと
のあづりどうたん。
ふナあさへふ
る、ふこケの毛うと
ちんとせとうの
ゆるふ
すけちろとん
をくれイと
あるどうう
こケの毛うと
あうて毛うする
ヒすでまれん
ろうふ
とそーて
ゆ
ちうを
さスとあるひ
うふ
ある
ひと
みるぎ
ふ

⊗ひとまちろうどゝたろう

⊗みるぎふ

大口屋

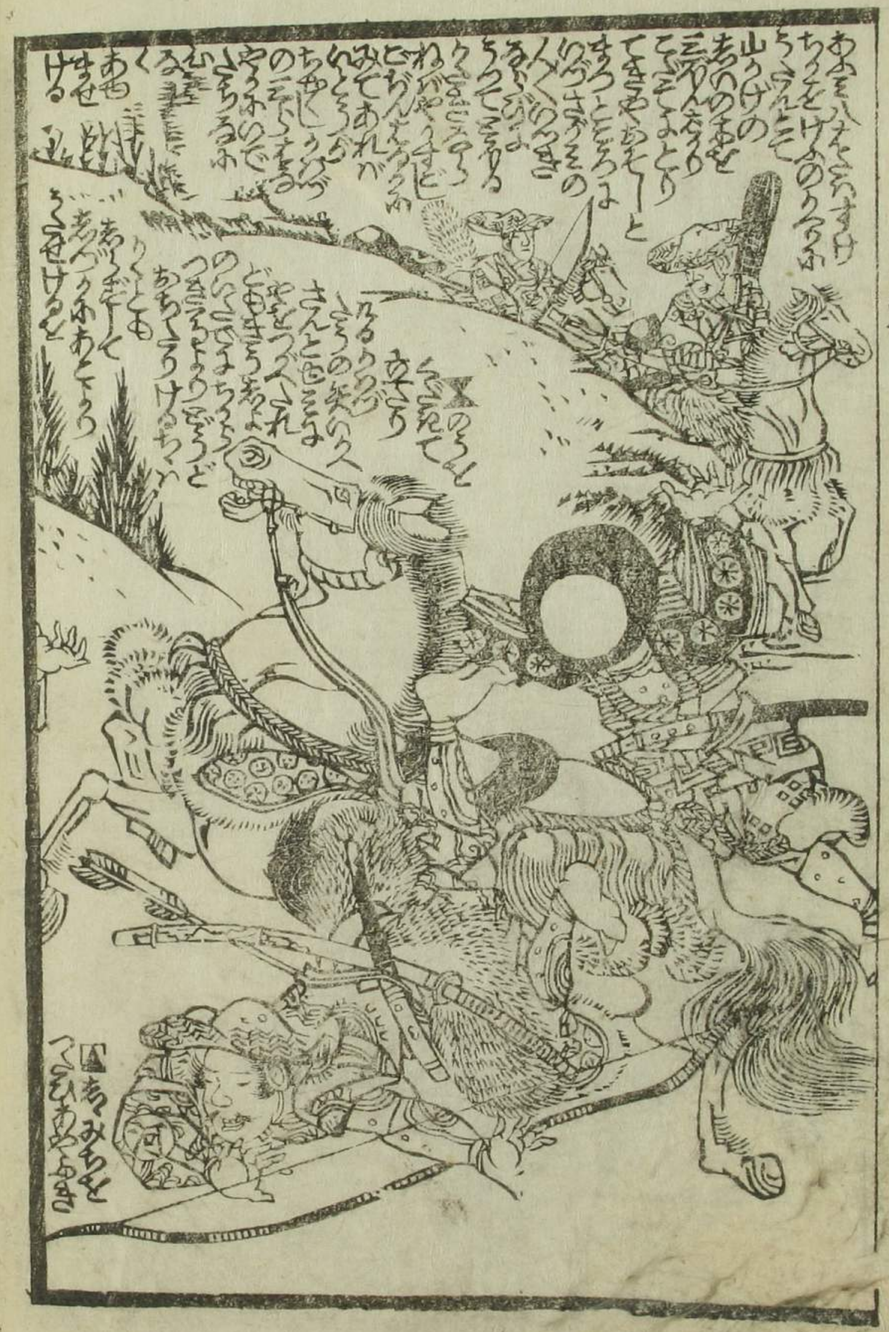
中之
北尾重政

一遊齋重政画　全部六冊

置我拍子中奏

甲午春發兌

永寿堂
西村屋与八販



近
河

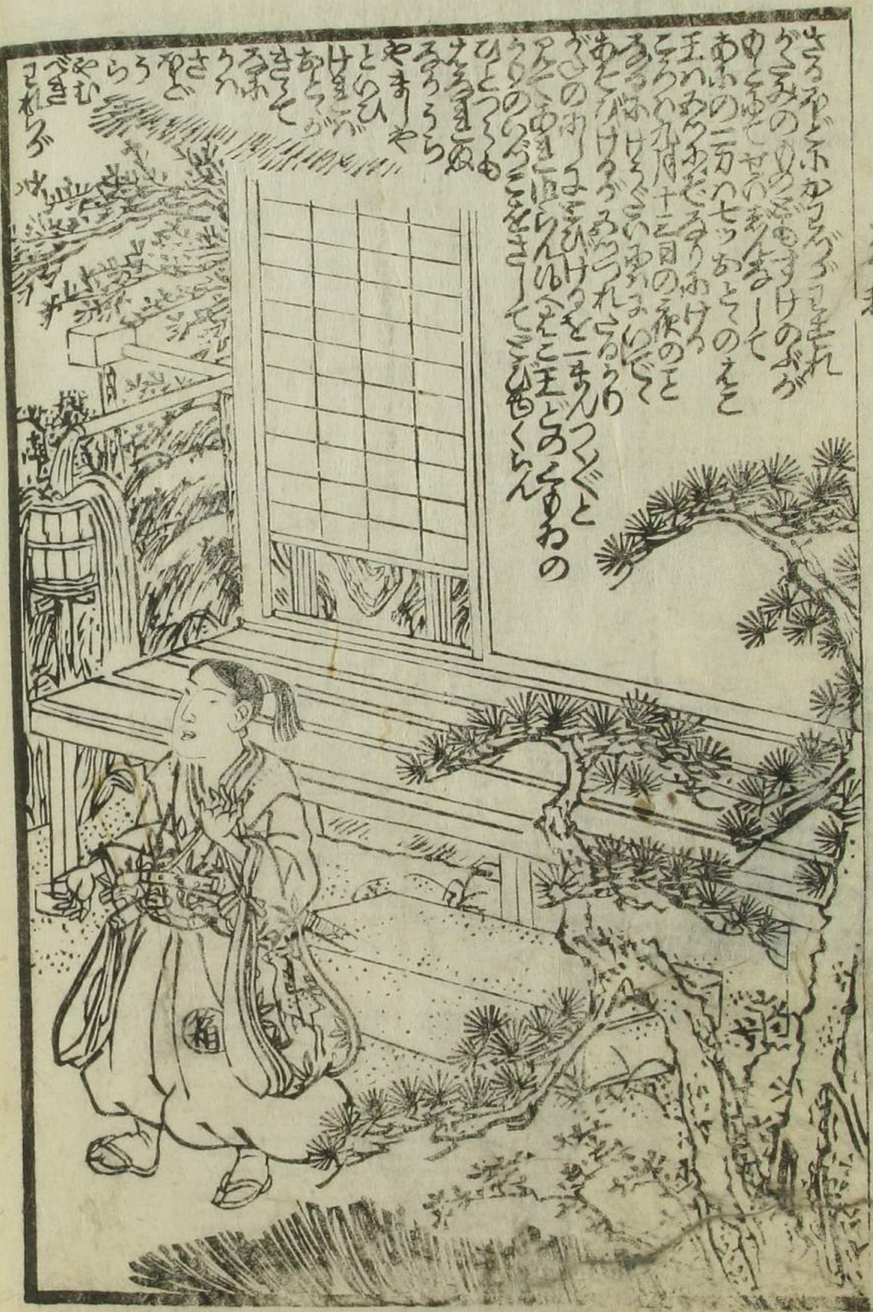
四
万
清

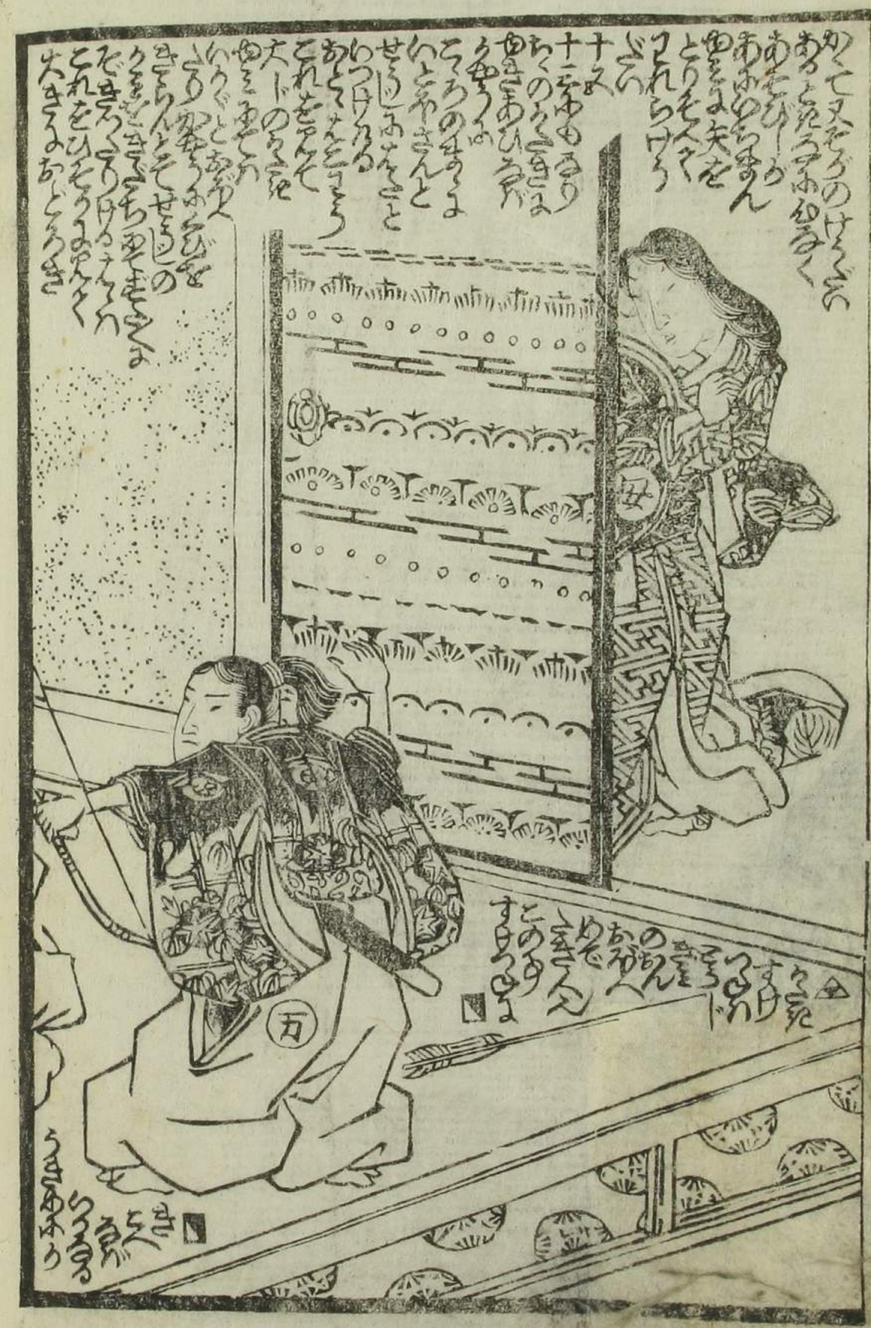
信
四
力

三
頼
清

清
盛
時

昌
時




母
万

箱

信
箱
母

箱

それよろけう
ぶくわのがそのあ
しらぬがそのあ
ろうぐをそのろう
まんとせーあをそ
ろうぐろうぐふ
そさ丁山そみ
ろうのくく
あまりなざんこ
ありがられば
すけうのわ
いろくとけう
たへがらのちを
こひけるとらへ
どもうそ平者う
いいまろしを
あけくでうろ
いちあのふうくで
やうけんとりふ
きこやうくな
きこーあり
られまるうち
あけくでゆで
あけのひ
るとそな
あふうろー
ぎごいろう

山口屋

下
西村屋

東海道

今年出板
合巻三冊

竹葉のつゆ 下巻

天保甲午春

永壽堂梓行

けうぶこのもの
きれ〳〵でのぢんちんゆく
ちゝきのらのち
たそろうけまだ
そのようとひ
ゑくめあゝぎさきふ
えやくもとりつき
たちて一すんい
十ゑもとそろう
十三ゆゑ
ろりふけゐ
されがあふの
一すんをかけんぶく
きせたろのへを
もらんとてそろの
十ゑかすけゐう
とそろのゝせけゐ
ゆきあとそのをと
ようろいたこ行山へ
のやせろぐろきうの
のとあてちこまゐ
あきうひあいあ角けを
こけさせそゑきゝく
ひとうゆうぐろうろうつの
こうひとうれらぶ

▲▲ぶこのそも
ふひゝくいせん
とそやぐて
ゝとゝのぐろ
とうのとそら
ゆをゐ
うけゐ。

成
敗

時

十九

二十

ところへけんくにねん
に月のとをりしほ
よりとも公ふ[illegible]
かりてうあそきよう
そもそもふげすあを
りて者よ大めうく
ふまこれけるけうごのの
人くとれをきてさそこそ
天とうとれくよりやのうさ
きをうこめのふぎやろ
とうらのあうとようとび
そのようあとこそまうり
けれされバまけうり
おのおのうけとび
ふ[illegible]のようそこいふこび
えうあうくとうれバ今一ト[illegible]び
そうにはせんわあごうをあ
すんとそたらそへ四まうけり
ごとようりもうまこうどのく
めうあようてのちのん九十二さき
うちつれてうあうくとそ
とやりけるようきうろ
くうろうれば大いそのも
よやゲのとふくそうにちうく
あうふきくそうにはせんそのみりの
ゆうくんをあげて大波のりをそそどめける

あひとよりのり
きてさろそく
まひとよりせまろ
三えうけのへと
りろうあさうきを
ゆうこのめや
うくえと九十二さき
ひきうけくのみ
けるどそらこせんの
あよういきうん
さろうきうん
たどまうまけ
そうのうんぎ
らまいうのとそ
できあべきと
ア[illegible]ア[illegible]
そうふあうーが
あきりよりの
さうぎきける
ゆえ大のそゆき
のひーあふの
きの上こうろ
のとうるーと
よろひこうそ
かこふうげ
うけそこせ
うまうようう
のりくー

おや
りのそこそ
うけけるう
こどのこ
うえあき
ひること
をそめづ
らーやとた
むひこれへと
らひるくう
くさまう
そうそひき
れどおすと
うどうぎそう
きうきこのう大
ゆきゆそくさまう
ふうけと
うきう

致
成
母

致
成

時
九

十二

天保五甲午年孟春發行

千代福良著聞集　毎編八冊　曲亭馬琴作　第一編上帙出来　北尾重政画

扇屋岸野帶屋蝶三　怪談桂川浪　全四冊　林屋正藏作　歌川國貞画

倉之山壯三樽の之繁昌　俳優百歌撰　全四冊　林屋正藏作　歌川貞秀画

落噺笑富林　袋入一冊　林屋正藏作　北尾重政画

繪本曽我物語　全六冊　元祖楚満人作　北尾重政画

繪本頼朝一代記　全五冊　舊本再刻　歌川貞秀画

繪本義經新高館　全五冊　舊本再刻　歌川廣重画

東都本問屋　馬喰町二丁目　永壽堂西村屋與八版

山口屋藤兵衛

江戸の美艶仙女香　包　四十八府　黒油美玄香　京橋弐丁目角　坂本氏製